

# スペイン語科教員にインタビュー JAIME RECUERO DÍAZ

**Q1: ¡Buenos días! 読者の皆さんに簡単に自己紹介をお願いしますか？**

**A:** スペインのマドリード出身の Jaime Recuero Díazです。スペイン語を教えて5年以上になります。APUに着任前は、他の日本の大学で2年間教えていました。また、コロナ禍はマドリードに戻り、短期間オンラインで教えていました。



Recuero Díaz教授が学生の質問に答えている

**Q2: 真面目な質問に入る前に、もし1曲だけを使ってスペイン語を教えるとしたら何を選びますか？**

**A:** ヒスパニックの文化は驚くほど多様で、スペイン語学習のダイナミックな旅を少しでも表現できるような曲を1曲だけ選ぶとしたら、2人のコロンビア人が作ったYouTubeのヒット曲『Qué difícil es hablar el español (スペイン語を話すのはなんて難しいんだろう)』でしょう。この歌詞は、スペイン語のスラングに地域差があるために外国人学習者が直面する困難をユーモラスに表現しています。例えば、この歌の中でchuchoという語彙が出てきますが、これはスペインでは「犬」を意味しますが、別の国では「麻薬」を意味するかもしれないし、また別の国では下品な言葉を意味するかもしれません。スペイン語圏出身の友人たちとのコミュニケーションの中で、何気ない言葉が愉快的な誤解につながるという実体験の面からも、この歌は響くものがあります。

**Q3: 面白いですね！学生ととても良い関係を築と教授は高い評価を受けています。どのようにして学生のやる気を引き出し、維持しているのですか？**

## 「共感することが私の指導法の基本です」

**A:** 私自身の言語学習者としての経験から、日本語のような母語とは異なる言語体系を使いこなすことの難しさはよく理解しています。これは学生がスペイン語を学ぶのと同じような感覚であると思います。

そのため、**共感することが私の指導法の基本です**。APUでは、学生一人ひとりの学び方が異なることを認識し、複雑な概念を明確にするために、英語と日本語の両方を説明する時に使います。



クラス内でのグループディスカッション

また、**適応能力**も私の重要な才能です。学生の興味や学習ペースが多様であることを認識し、ごく一般的な文法演習を避けたり、それぞれの学生を魅了するアクティビティを取り入れたりすることにより、学習が早い学生にも苦手な学生にも対応できるようにしています。例えば、学生の興味や学習スピードの違いをカバーするために使っているアクティビティに、よく知られている「Guess Who?」があります。スペインやラテンアメリカ文化の有名な人物を題材にして、学生自身が自身の興味から身近な歌手やミュージシャンの名前を投稿します。この活動は、語彙を増やしたり、文法構造の理解を強化するだけでなく、学習に楽しさと文化的関連性を付け加えることができます。

## 「他の教科と違って、日常の何気ないこと全てが語学の学習に繋がります」

**Q4:** クラス内外で企画した言語関連のイベントや活動の中で、最も印象に残っているものをひとつ教えてください。

**A:** 私が企画した活動の中で最も印象に残っているのは、以前授業で見た映画からヒントを得て、学生たちに自分たちの生活の一日を紹介するビデオを作った活動です。この活動は、言語学習と実生活を結びつけた方法であったので取り入れました。APUではまだ実施したことがないので、近いうちに試してみたいと思っています。

この活動の基となったのは、『Spain in a Day』という短編映画です。この映画



Subi, A. A., et al. (Directors). Spain in a Day. (2016) [Film]. Spain: Media Pro Pictures. Retrieved from [https://www.imdb.com/title/tt6100110/?ref\\_=ttfc\\_fc\\_tt](https://www.imdb.com/title/tt6100110/?ref_=ttfc_fc_tt)

は、スペインやその他の地域に住むスペイン語を話す人々の日常を、ランダムに切り取ったものです。この映画の興味深い点は、出演者がさまざまな場所や背景を持っているので、視聴者がさまざまな生活を比較することができ、多様な家族に対する本物の見識を提供し、仕事での葛藤、笑い、涙、そして衝突がある日常の瞬間を描いていることです。

以前大学でこの活動を実施した際、プレゼンテーションの結果は私の予想をはるかに超えていました。それは笑いと涙を誘う感動的なプレゼンテーションに変わりました。最初は興味がなさそうに見えた学生も、一人一人が熱心に参加し、ビデオに字幕やエフェクトを丁寧につけていました。最初は恥ずかしがり屋で控えめな印象だった学生が、ビデオで自分のヘビのペットをみんなに自慢していたのを覚えています。

私はこの活動をAPUでも行ってみたいと思っています。特に、一日の生活のビデオを作成することは、語学授業のような日常の何気ない場面を取り上げる機会がないため、他の科目ではできないユニークな体験だと思います。語学学習をしていると、ある時点で、より深い個人的なレベルで自分を表現しなければならない場面に遭遇します。ですから、このような実践的で有意義な活動を語学の授業に取り入れることは、とても価値のあることだと思います。

**Q5:** 学習スピードが異なる学生たちに対し同じ授業を実施することには、どのような難しさがあるのでしょうか？

**A:** 学習スピードが違うというのは、賢さの問題ではありません。それよりも、より効果的な言語の把握の方法を知っている学生や、単に学習能力が高い学生がいます。授業が始まって数週間経てば、学生個々のニーズを把握できるようになります。

その後、学習ペースの異なるチームでの共同作業を施すことが有効的です。学習スピードの速い学生と苦手な学生を組み合わせることで、学生が自分の知っていることを説明し直したり、友達に質問したりすることを通して、他の視点から授業の内容を考えることができ、協調性が養われます。

もう一つのアプローチは、学生がより自主的に行動するように促すことです。例えば、口頭テストや

プレゼンテーションの場合は、どの程度準備するかは、学生の自主性に任せています。基本的な構文のみに集中し、言語をマスターするためにまず、基礎的な要素を理解し、練習することを選ぶ学生もいます。一方、学習スピードの速い学生は、より深く教材の内容を掘り下げることが好むかもしれません。

#### Q6: 同僚教員から学んだグッドプラクティスを教えてください。

**A:** バレンシアのエドゥアルド・ビラ・ロペス教授から、授業中に役立つ**ディクテーション**を教えてくださいました。

初めは、ディクテーションはやや時代遅れで、簡素すぎるし、初心者には難しいと思っていました。しかし、教授のアプローチに興味をそそられました。私は通常、単語の全般的理解のために学生にスペイン語の単語を英語に翻訳させるのですが、彼はディクテーションの練習をすべてスペイン語で行い、スペイン語で書きとるのではなく、聞いたことをそのまま母語に書き写すように指示していました。この方法は私が全く考えなかったものでした。ここAPUでは、様々な言語的背景を

持つ学生が集まっているので、自分の好きな言語を使うように促せば、全員が同じようなレベルで学べるかもしれません。私は、エドゥアルド教授に、学生が使っている言語を自分が話せないかもしれないのに、どのようにして彼がフィードバックしているのか尋ねてみました。彼はディクテーションの目的は、学生がスペイン語の学習だけに集中できるようなリラックスした雰囲気を作ることだと答えてくれました。学生が母語で自己表現できるようにすることは、たとえ教師の理解が得られなくても、快適で効果的な学習環境を作ることにつながると教えてくださいました。

#### Q7: APUの言語教育の将来像をどのように描き、他の先生方はその発展にどのように貢献できるとお考えですか？

**A:** APUの言語教員は、プレゼンテーションやセミナーを通じて、学生にAPUの魅力を伝えることを目指すべきです。例えば、来学期からAPUは九州で初めてDELE（公式スペイン語能力試験）を実施します。APUの貴重なリソースのもう一つの例は、セルフ・アクセス・ラーニング・センター（SALC）です。SALCは創造的で有望なコンセプトですが、多くの学生はその運営方法や活用方法をまだよく知りません。

他の方法でいえば、Moodleのような従来のプラットフォームを超えた革新的なツールを探求することです。Moodleは、授業内容に関する教師と学生のコミュニケーションを促進すると共に、学習体験も強化します。例えば、ポッドキャスト、YouTubeチャンネル、ゲーム型学習アプリケーション、あるいはAPU学生専用のモバイルアプリケーションやフォーラムの開発なども考えられます。



#### Q8: ありがとうございます！インタビューの最後に、スペイン語のフレーズをひとつ教えてください！

**A:** Pase lo que pase... (何があろうと...)

便利なフレーズであり、私の好きな歌のタイトルでもあるこのフレーズは、とても美しいです。「何が起ころうとも...」という意味で、このフレーズの後にいろいろなアイデアを差し込むことができます。Pase lo que pase ... be happy、Pase lo que pase ... do your best、あるいは歌のようにla vida continua（「人生は続く」）。このフレーズは、その後に出てくるアイデアや表現の多さから非常に便利です。どんな状況にあっても人生は続くということを忘れてはなりません。だから、あまりストレスを感じすぎる必要はないですよ、そう思いませんか？

# インタビューアーの感想

## インタビューー兼著者

ゾーイ、ベトナム

APM（会計・ファイナンス）

私はJaime教授のスペイン語Ⅰを受講しましたが、クラスのみならず彼のエネルギーが大好きでした。授業は毎日1限目だったにもかかわらず、キャンパスに行くのが楽しみだったと言っても過言ではありません。個人的に印象的なのは、Jaime教授に授業の内容やそれ以外のことでも何でも気軽に質問でき、彼が熱心に答えてくれることです。彼はスペインの文化や、スペインと比較した日本についての印象を話すのが大好きで、聞いていてとても面白かったです。



Recuero Díaz先生（中央）とアウン（左）、ゾーイ（右）

## インタビューアー

アウン、ミャンマー

APM

沢山の友達がJaime教授の授業を執ることを勧めてきますが、今回インタビューをしてみて、Jaime教授がこれほど高く評価されている理由がよくわかりました。Jaime教授の授業に対する情熱は、私たちとの会話を通して、しっかりと伝わってきました。教授は彼自身の授業テーマに対する純粋な熱意によって、自然に学生たちを惹きつけ、刺激しているように感じました。

さらに、Jaime教授はすべての授業で全力を尽くし、全学生が学ぶだけでなく、その経験を楽しむことができるように心がけています。今までの授業法にとらわれることなく、学生を理解し、より深いレベルで学生とつながろうとする教授の授業は、教育レベルが高いと同時にユニークです。このような洞察に満ちた交流を経験したことで、将来機会があれば、Jaime教授のスペイン語クラスを受講したいと、以前にも増して強く思うようになりました。

[Q]とは



APUで素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてもらいたい、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。